

**進捗状況の概要** 【1ページ以内】**【事業実施体制の構築】**

平成24、25年度は、本事業の協働教育プログラムの実施体制を構築した。平成24年12月、本学学際融合教育研究推進センターの下に人間の安全保障開発連携教育ユニットを設置し、学内においては本事業参加部局と国際交流推進機構、学外においてはAUN加盟大学とAUN事務局との連携体制を構築した。平成25年1月には本事業のキックオフミーティングを開催し、ダブルディグリーを実施する主幹5大学とAUN事務局による実施協力の同意書への署名を行った。同年7月にはKU-AUN運営会議を発足させた。

**【協働教育プログラムの構築】**

KU-AUN運営会議は構想調書の計画に従い、「人間の安全保障」開発を先導して実践する人材育成を目指し、かつ各大学のニーズに合わせて、以下のような協働教育プログラムを構築した。

(1) フィールドワークを通じて実践的な課題発見能力を修得させると同時に、本事業のダブルディグリープログラム参加への動機づけを目指した、学部学生対象のサマースクールをASEAN域内（派遣）および日本国内（受入）で開催した。平成24年度はタイへ合計30名、平成25年度はインドネシアへ15名の学生を派遣した。また、平成25年度にカセサート大学から合計24名、AUN加盟大学から23名の学生を受け入れた。

(2) AUN主要5大学（ガジャマダ大学（UGM）、バンドン工科大学（ITB）、チュラロンコン大学（CU）、マラヤ大学（UM）、シンガポール国立大学（NUS））及びカセサート大学（AUN非加盟）と協働で、「食糧と水」「エネルギーと環境」「パブリックヘルス」の3分野でダブルディグリープログラム構築を進めた。

①2年課程ダブルディグリー：パブリックヘルス分野で、本学の2年課程と相手側大学の1年課程を併せて2年間で修了するダブルディグリープログラムを構築した。平成26年度から本学医学研究科社会健康医学系専攻とCU公衆衛生学部、UM医学部との間でダブルディグリーを実施する。

②3年課程ダブルディグリー：食糧と水、エネルギーと環境の分野で、本学の2年課程と相手側大学の2年課程を併せて3年間で修了するダブルディグリープログラムを構築した。平成25年度、本学農学研究科とUGM、エネルギー科学研究科とITBおよびUMの間でダブルディグリーを開始し、UGM林学部の学生2名が本学に入学した。他の大学ともダブルディグリー実施に向けて最終的な協議を行っている。

③共同指導型シングルディグリー：AUN加盟大学のうちダブルディグリーを実施しない25大学の修士学生を対象としたシングルディグリープログラムを開始し、平成26年度に来日する学生4名を選抜した。

**【質の保証】**

(1) 学生派遣・受入の定員を定め、学部の成績（GPA2.30以上）および英語力試験成績（TOFELiBT80またはIELTS6.0以上）という選抜基準を設定した。

(2) 各大学の英語版シラバス、互換可能単位数、1単位当たり学習時間数の基準等の資料を作成し、質の保証を伴った単位互換制度を構築した。

(3) 各大学のアカデミックカレンダーの相違を勘案した履修スケジュールを作成した。

(4) シングルディグリーでは本学と相手側大学の指導教員が同意しラーニングアグリーメントに記載すれば、本学の指導教員が相手側大学における学生の学位論文審査に加わることができる体制を構築した。

**【本構想における中間評価までの交流学生数の実績】**

平成24年度				平成25年度			
派遣		受入		派遣		受入	
計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
15名	30名	15名	0名	30名	18名	30名	49名